



アンバサダーのキム・ウビンがマニユファクチュール ジャガー・ルクルトを訪問し、アイコンであるレベルソの製作を見学

ジャガー・ルクルトは先日、アンバサダーのキム・ウビンをジュウ溪谷のマニユファクチュールに迎え、レベルソの制作の裏側にあるクラフツマンシップや技術的なスキルを紹介しました。

ソウル生まれのキム・ウビンは、人気テレビドラマや、ラブコメディ、ドラマ、アクション映画など様々なジャンルのヒット映画で魅力的な存在感を示し、アジア中で人気を博している俳優です。演技に力を注ぐ一方、2021年の初めからジャガー・ルクルトのアンバサダーも務めています。

「キム・ウビン氏が多忙なスケジュールの合間を縫って、地球を半周ほど飛んでジャガー・ルクルトのマニユファクチュールを訪問してくれたことを光栄に思います。」と、ジャガー・ルクルト CEO、カトリーヌ・レニエは述べています。「好奇心旺盛な彼は夢中になって、ジャガー・ルクルトの歴史を深く学び、時計製造の複雑さを理解しました。アトリエ・ド・アントワヌの体験プログラムが彼に深い感銘を与えたことは間違いありません。」

短編動画『Behind the walls』は、マニユファクチュールに滞在しているキム・ウビンを撮影したものです。彼は生産工房やジャガー・ルクルトのヘリテージギャラリーを見学し、メティエ・ラール工房の職人たちが習得している技巧について知識を深めました。またメティエ・ラール工房では、レベルソの何も描かれていないケースバックが理想的なキャンバスとなり、職人たちが創造性を美しく表現する過程を見学しました。最後に、アトリエ・ド・アントワヌでレベルソ ディスカバリー・ワークショップに参加し、1931年に誕生して以来有名なケースを反転させる時計の物語について学び、マニユファクチュールの専門家の指導を受けながらレベルソのケースを組み立てました。

「機械式時計を初めて見たときから、その複雑な機構に好奇心をそそられ、どのように作られるのか知りたいと思っていました。今回のマニユファクチュールへの訪問は、期待を遙かに超えたものでした。」と、キム・ウビンは述べています。「一つ屋根の下に終結した様々な技巧を見ることができ、また、時計職人たちが自分たちの作業やその驚くべき精度、世代から世代へと引き継がれている装飾工芸の専門技術について説明してくれたことで、とても素晴らしい体験となり、自分が着ける時計への愛着がとて強くなりました。」



この訪問の最後には、マニファクチュールから特別にパーソナライズされたレベルソが贈呈されました。このレベルソのケースバックにはスペシャルメッセージ「To Kim Woo-Bin - a memory to cherish forever - Jaeger-LeCoultre (キム・ウビン様へ いつまでも大切にしたい思い出に-ジャガー・ルクルト)」が刻印されており、彼だけの特別な時計です。

キム・ウビンは次のように述べました。「この時計は、他のどの時計にもない特別なものです。この時計を着けるたびに、刻印されたメッセージによって、マニファクチュールの訪問が格別であったことを思い出することができます。学んだ内容だけでなく、温かく親切に私を迎えてくれたマニファクチュールの人々の精神や情熱も素晴らしいものでした。」

ジャガー・ルクルト - ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー

1833 年以来、ジャガー・ルクルトは、革新性と創造性への抑えきれない渴望に導かれ、故郷ジュウ溪谷の平穏な自然環境からインスピレーションを得て、複雑機構への熟練した技術とその精度で際立った存在となっています。ウォッチメーカーの中のウォッチメーカーとして知られるマニファクチュールは、1,400 を超えるキャリアの制作と 430 以上の特許を通して、その絶え間ない革新の精神を表現してきました。ジャガー・ルクルトの時計職人たちは、190 年にわたる蓄積された専門知識を駆使して、最先端の精密なメカニズムの設計、製造、仕上げ、装飾を行い、何世紀にもわたるノウハウと情熱を融合させ、過去と未来をつないでいます。時代を超え、常に時と共にあります。180 種類もの専門技術がひとつ屋根の下に集結したマニファクチュールは、その技巧に、デザインの美しさを独特で控え目な洗練を組み合わせ、高級時計に息吹を吹き込んでいます。

キム・ウビンについて

韓国を代表する俳優であるキム・ウビンは、2011年のテレビドラマ『ホワイトクリスマス』で俳優としてのキャリアをスタートしました。『紳士の品格』（2012年）でさらに知名度を上げ、『ゆれながら咲く花』（2013年）、『相続者たち』（2013年）、『むやみに切なく』（2016年）でブレイクしました。その後、『チング 永遠の絆』（2013年）や『技術者たち』（2014年）、『二十歳』（2015年）など数々のヒット作に出演しました。6年間活動を休止していましたが、テレビシリーズ『私たちのブルース』（2022年）とチェ・ドンファン監督の『エイリアン（仮）』（2022年）で俳優業に復帰し、いずれも韓国内外で大成功を収めました。最近では、今年5月に公開された Netflix オリジナルシリーズの SF シリーズ『配達人 ～終末の救世主～』に出演しています。ファッションとライフスタイルのアイコンとして、アジア全域で絶大な人気を誇っています。